

木田市長の



vol.44

自分自身の運を信じて

市長選が終わりました。無投票で当選させていただいたことについて、当日よりも後から、じんわりと喜びがわいてきました。

前回は厳しい選挙選だっただけに、運動のしこりが残らないことや周りの人たちに掛ける迷惑が小さかったことなどを考えたりするたびに、喜びが大きくなってきました。近隣の市長選では、現職の候補が苦戦をする例が多くなってきました。

財政状況が大変厳しかったり、市民のニーズが大きかったりすると、現職にとっては厳しい選挙となります。

そのような情勢の中で無投票で当選させていただいたわたしは、本当に運が良い男だと思います。今回の選挙のときも多くのかたから「あなたは運が良い男や」と言われました。わたし自身も、これまで何かを決断するときや難しい問題に直面したとき、「わたしは運が良い男やから大丈夫や」と自らに言い聞かせ、自らを信じて行動してきました。

最近では、「自分は運が良い」と思っていると、本当に運が良いようになってくるのではないかと思います。自信のない顔をしていると幸運の女神がそっぽを向いて離れてしまうかもしれません。まさに、「運は自分でつかむもの」と言えるのでしょうか。しかし、そうは言っても、いい加減な判断で仕事をしていては大失敗となります。慎重かつしっかりと考えた上で、自分は運が良いと自信を持って決断することが大切ではないでしょうか。

誰にだって判断のつきかねる問題があります。判断が間違っていて失敗してしまったら、そのときは「神が試練を与えてくれた」「失敗は、成功のもと」と思い直して頑張るしかありません。やっぱりここでもプラス思考が良いですね。

そういえば先日、「失敗をして後悔することが人間を成長させる」と、NHKの番組の中で脳学者の茂木健一朗さんが言っていました。

わたしの二期目は、一期目以上に積極的に、そしてプラス思考で頑張っていきます。

真珠のように小さくても輝く鳥羽市づくりに挑戦していきたいと思えます。



人権文化の花を咲かせよう

Vol.84

ブルーリボンに 祈りを込めて

3月14日に横田滋さん・早紀江さんご夫妻をお招きし、「第27回鳥羽市人権講演会」を鳥羽商工会議所かもめホールで開催しました。

昭和52年11月15日、当時、中学1年生だったお二人の娘さんである横田めぐみさんが、下校途中に突然姿を消してしまいました。それからご夫妻は、あらゆる手を尽くし、めぐみさんを探し続けました。その後、亡命した北朝鮮元工作員の証言などから、めぐみさんが北朝鮮に拉致され、平壤で暮らしている可能性が浮上してきました。

平成14年、北朝鮮は拉致の事実を認めましたが「めぐみさんは死亡」という発表がありました。

しかし、ご夫婦はこの発表後も「めぐみさんを返してほしい」という願いから、何千回と講演会活動などを続けてこられました。

今回の講演を通し、ご夫妻のめぐみさんへの切なる思いは、聞く人の心を打ち、この問題を風化させてはいけなさと感じたかたもたくさんいると思います。また、拉致という行為が、重大な人権侵害であり、この問題について関心と認識を深めていただけの機会にもなったと考えています。

「しいたげられている多くの北朝鮮の人たちを助けてあげてほしい」と発言された早紀江さんの言葉からも、拉致をした国を憎むのではなく、拉致という重大な人権侵害について、わたしたち一人ひとりが認識を深めていく必要があると感じました。